

河川砂防技術研究開発公募 地域課題分野（砂防）
令和4年度採択テーマ
事後評価結果

研究テーマ名	研究代表者	総合 評価
世界初の流木流出統合モデルを用いた流木動態解析の再現性向上（研究期間：R4年度～R6年度）	東北大学グリーン未来創造機構 特任教授 小森大輔	A
<研究概要> 近年、東北地方に甚大な被害をもたらした2016年北海道・東北豪雨や2019年東日本台風豪雨の災害事例を対象に、現地調査より流木の発生、堆積・再移動、流出の動態を明らかにする。申請者が開発した流木流出統合モデル（Komori et al., 2021）を東北地方の山地河川流域に適用し、モデルの検証・高度化する。高精度化したモデルを用いて、降水量のみから流木流出リスクを評価できる手法を確立する。		
<事後評価コメント> 本研究では、研究者らの開発した流木流出統合モデルを高度化して、降雨のみから流出流木量を推定する手法の可能性を示したこと、また成果を多く論文化していることは、砂防行政への反映の観点から大いに評価出来る。 今後は、多くの山地河川流域に適用しモデルの高度化を図るとともに、推定される結果のばらつきを砂防事業へ反映するための考察を加える等、更なる検討を進めていただきたい。		

※評価基準

- A：研究目的は達成され、十分な研究成果があった
- B：研究目的は概ね達成され、研究成果があった
- C：一定の研究成果があった
- D：研究成果があったとはいえない